

## 第1編本文のスタイルファイル

用紙, 余白

A4 用紙. 余白は上下左右ともに 20mm. 一段組. 特に指定がない限り, フォントは 11 ポイントの MS 明朝体 (全角), Times New Roman (半角) が基本. 1 ページあたり 39 行を基本とする. ±2 行の誤差は認める. 句読点は「、。」ではなく「, .」.

ひらがな, カタカナ, 漢字, ギリシャ文字, 句読点は全角. アルファベット, 数字は半角.

### 枠内のスタイルについて

章スタイル

章は「1. 目的」のように 11 ポイント, MS ゴシック. 章番号は全角数字, 全角ピリオド. ピリオドの後は続けてタイトルを記入. 章タイトルの入る枠は必ずページ先頭に持ってくる.

節スタイル

節は「3.1 ○○○○」のように 11 ポイント, MS ゴシック. 節番号は半角数字・半角ピリオド. 節を表す数字の後は全角スペース. 節タイトルの上には 1 行スペースを入れる.

項スタイル (必要に応じて設置)

項は「3.1.1 ○○○○」のように 11 ポイント, MS ゴシック. 半角数字・半角ピリオド使用. 項を表す数字の後は全角スペース. 節スタイルと項スタイルが同枠内に共存しても節スタイルと項スタイルの間には空白行を入れない.

1. 一般	
1.1 性能目標と参照地震動	← 1行開ける
(1) [REQ] 当該構造物が . . . . .	
1.2 参照地震動の設定における基本方針	
(1) [REC] 参照地震動は . . . . .	
1.3 作用の時間的変動性に基づく分類	
1.3.1 永続作用	
(1) [REC] 永続作用は, . . . . .	

### 小見出しスタイル

小見出しは「(1) [REC] ○○○○」のように 11 ポイント。半角数字・半角括弧使用。半角スペースを挿入し、[REQ], [REC], [POS]の半角英字, 半角括弧使用。全角スペースを挿入し、文章を書き加える。小見出しの前には空白行は入れない。文章はインデント（頭下げ）を行い、行頭をそろえる。

悪い例

#### 3.2 安全性照査対象地震の選定

- (1) [REC] ← 安全性査証用地震動は、原則として対象となる地震（安全性照査対象地震）を選定した上で、そのような地震が発生した場合の地震動として設定する。
- (2) [REC] ← 対象地点及びその周辺に活断層が知られていない場合など、「安全性照査対象地震」が明確に規定できない場合には、マグニチュード 6.5 程度の直下地震が発生する可能性に配慮する。

良い例

### 小見出し以下のスタイル

小見出し以下のスタイル「1) ○○○○」のように 11 ポイント。半角数字・半角片括弧使用。半角スペースを挿入し、文章を挿入する。「1)」の行頭は、小見出しスタイルの文章の行頭に合わせ、文章はインデントを用い、行頭をそろえる。しかし、極力小見出し以下のスタイルは使わないこととする。

## 枠外のスタイルについて

枠内の後は、1行空けて、左詰で【解説】と記し、改行する。

小見出し番号を使用する場合は、「(1)について」と記し、改行を行う

1マス（全角スペース）空けてから、解説を記入。スタイルは特に問わない。

段落を変える場合は、段落間は1行空ける。新しい段落の冒頭は1マス空ける。

### 3.2 安全性照査対象地震の選定

- (1) [REC] 安全性査証用地震動は、原則として対象となる地震（安全性照査対象地震）を選定した上で、そのような地震が発生した場合の地震動として設定する。
- (2) [REC] 対象地点及びその周辺に活断層が知られていない場合など、「安全性照査対象地震」が明確に規定できない場合には、マグニチュード 6.5 程度の直下地震が発生する可能性に配慮する。

#### 【解説】

##### (1)について

安全性照査地震動の設定際としては、まず、当該地点において最大級の地震動をもたらさうる地震を選定する。この地震のことをここでは「安全性照査対象地震」と呼ぶ。「安全性照査対象地震」は、原則として地震規模（マグニチュード）と震源断層の位置により表現される。

次に、・・・・・・・・・・

##### (2)について

1995年兵庫県南部地震以降、活断層調査が精力的に行われている・・・・・・・・

見本

枠外スタイルが終わり、次の枠内までは2行空ける。

## その他のスタイル

### 改ページ

基本として、枠内では改ページを行わないようにする。

### 図表など

図、写真のタイトルはそれらの下に、表のタイトルは上に、11ポイントで書く。番号は通し番号をつけ記載する（図1、表3など）。

図表は、それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする。やむを得ない場合は、次ページになってもよいが、章末尾にまとめたり、引用する文章よりも前のページにきてはいけない。

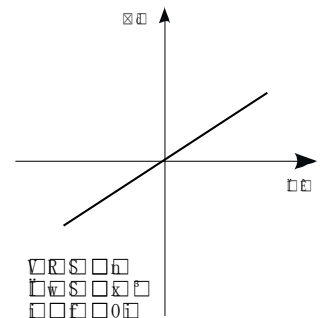


図1 モデル0

図,表の中の文字は 11pt 以下の大きさにし,フォントは MS 明朝もしくは Times New Roman とする.

#### 数式

数式はセンタリングし,各章ごとに番号をつけ,右寄せで表記する.番号は半角括弧でくくる.式と式番号の間にはなにも記さない.文章中の式の参照は,「式(1)」とする.

$$H_s = 1.5 k_n R_d \quad (1)$$

#### 単位系

単位は原則として SI 単位を用いること.単位の字体は「立体」とする.「斜体」にしない.

#### 参考文献

章全体を通して番号をつけ,章の最後にまとめて掲載する.参考文献の表記は,土木学会論文集投稿規定に準じる.一つの参考文献が 2 行以上にわたる場合は,作成例にあるようにインデント(頭下げ)を行う.

本文中で参照する場合には,半角,MS 明朝で「梶田ら<sup>2)</sup>」のように上付きで記述する.2 つ以上の論文を同時に参照するときは「文献<sup>1),2)</sup>」とする.参考文献では西暦を使用する.

#### 参考文献

- 1) (社)日本道路協会:道路橋示方書 V 耐震設計編,丸善,1996.12.
- 2) 梶田幸秀,西本安志,石川信隆,香月智,渡邊英一:桁間衝突現象のモデル化に関する一考察,土木学会論文集, No.661/I-53, pp.251-264, 2000.10.

見本

作成者 梶田幸秀 (九州大学)

## 第2編の各種作用のスタイルファイル

### 用紙, 余白

A4 用紙. 余白は上下左右ともに 20mm. 一段組. 特に指定がない限り, フォントは 11 ポイントの MS 明朝体 (全角), Times New Roman (半角) が基本. 1 ページあたり 39 行を基本とする. ±2 行の誤差は認める. 句読点は「、。」ではなく「, .」.

ひらがな, カタカナ, 漢字, ギリシャ文字, 句読点は全角. アルファベット, 数字は半角. ただし, 章番号「第〇章」のときはのみ例外で全角.

### 章スタイル

章は「第〇章 ○○○○」のように 14 ポイント, MS ゴシック. 章番号は全角数字. 「章」の文字の後は全角スペースを使用. ページの先頭, 中央に置く. 枠内には記入しない. 初タイトルを書いた後は 2 行空ける

### 枠内のスタイルについて

#### 節スタイル

節は「3.1 ○○○○」のように 11 ポイント, MS ゴシック. 節番号は半角数字・半角ピリオド. 節を表す数字の後は全角スペース.

#### 項スタイル (必要に応じて設置)

項は「3.1.1 ○○○○」のように 11 ポイント, MS ゴシック. 半角数字・半角ピリオド使用. 項を表す数字の後は全角スペース. 節スタイルと項スタイルが同枠内に共存するときは, 節スタイルと項スタイルの間に一行入れる.

#### 3.1 一般

← 1 行開ける

##### 3.1.1 性能目標と参照地震動

(1) [REQ] 当該構造物が . . . .

##### 3.1.2 参照地震動の設定における基本方針

(1) [REC] 参照地震動は . . . . .

#### 3.2 安全性照査対象地震の選定

(1) [REC] 安全性照査用地震動は, . . . . .

### 小見出しスタイル

小見出しは「(1) [REC] ○○○○」のように 11 ポイント。半角数字・半角括弧使用。半角スペースを挿入し、[REQ], [REC], [POS]の半角英字, 半角括弧使用。全角スペースを挿入し, 文章を書き加える。小見出しの前には空白行は入れない。文章はインデント(頭下げ)を行い, 行頭をそろえる。

悪い例

#### 3.2 安全性照査対象地震の選定

(1) [REC] ← 安全性査証用地震動は, 原則として対象となる地震(安全性照査対象地震)を選定した上で, そのような地震が発生した場合の地震動として設定する。

(2) [REC] ← 対象地点及びその周辺に活断層が知られていない場合など, 「安全性照査対象地震」が明確に規定できない場合には, マグニチュード 6.5 程度の直下地震が発生する可能性に配慮する。

良い例

### 小見出し以下のスタイル

小見出し以下のスタイル「1) ○○○○」のように 11 ポイント。半角数字・半角片括弧使用。半角スペースを挿入し, 文章を挿入する。「1)」の行頭は, 小見出しスタイルの文章の行頭に合わせ, 文章はインデントを用い, 行頭をそろえる。しかし, 極力小見出し以下のスタイルは使わないこととする。

## 枠外のスタイルについて

枠内の後は、1行空けて、左詰で【解説】と記し、改行する。

小見出し番号を使用する場合は、「(1)について」と記し、改行を行う

1マス（全角スペース）空けてから、解説を記入。スタイルは特に問わない。

段落を変える場合は、段落間は1行空ける。新しい段落の冒頭は1マス空ける。

### 3.2 安全性照査対象地震の選定

- (1) [REC] 安全性査証用地震動は、原則として対象となる地震（安全性照査対象地震）を選定した上で、そのような地震が発生した場合の地震動として設定する。
- (2) [REC] 対象地点及びその周辺に活断層が知られていない場合など、「安全性照査対象地震」が明確に規定できない場合には、マグニチュード 6.5 程度の直下地震が発生する可能性に配慮する。

#### 【解説】

##### (1)について

安全性照査地震動の設定際としては、まず、当該地点において最大級の地震動をもたらさうる地震を選定する。この地震のことをここでは「安全性照査対象地震」と呼ぶ。「安全性照査対象地震」は、原則として地震規模（マグニチュード）と震源断層の位置により表現される。

次に、・・・・・・・・・・

##### (2)について

1995年兵庫県南部地震以降、活断層調査が精力的に行われている・・・・・・・・

見本

枠外スタイルが終わり、次の枠内までは2行空ける。

## その他のスタイル

### 改ページ

基本として、枠内では改ページを行わないようにする。

### 図表など

図、写真のタイトルはそれらの下に、表のタイトルは上に、11ポイントで書く。番号は章ごと通し番号をつけ、章番号、半角ピリオド、通し番号の純で記載する（図 3.1, 表 3.3 など）。図表は、それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする。やむを得ない場合は、次ページになってもよいが、章末尾にまとめたり、

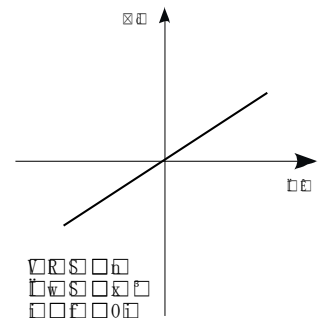


図 3.1 モデル 0

引用する文章よりも前のページにきてはいけない。

図,表の中の文字は 11pt 以下の大きさにし,フォントは MS 明朝もしくは Times New Roman とする。

### 数式

数式はセンタリングし,各章ごとに番号をつけ,右寄せで表記する。番号は半角括弧でくくる。式と式番号の間にはなにも記さない。文章中の式の参照は,「式(1)」とする。

$$H_s = 1.5 k_n R_d \quad (1)$$

### 単位系

単位は原則として SI 単位を用いること。単位の字体は「立体」とする。「斜体」にしない。

### 参考文献

章全体を通して番号をつけ,章の最後にまとめて掲載する。参考文献の表記は,土木学会論文集投稿規定に準じる。一つの参考文献が 2 行以上にわたる場合は,作成例にあるようにインデント(頭下げ)を行う。

本文中で参照する場合には,半角,MS 明朝で「梶田ら<sup>2)</sup>」のように上付きで記述する。2 つ以上の論文を同時に参照するときは「文献<sup>1),2)</sup>」とする。参考文献では西暦を使用する。

### 参考文献

- 1) (社)日本道路協会:道路橋示方書 V 耐震設計編,丸善,1996.12.
- 2) 梶田幸秀,西本安志,石川信隆,香月智,渡邊英一:桁間衝突現象のモデル化に関する一考察,土木学会論文集, No.661/I-53, pp.251-264, 2000.10.

見本

各種作用に関する付録については,参考文献の後,改ページを行い,

「付録1 ○○○」12ポイント,MS ゴシック,中央揃えで記入する。付録番号は全角数字。そのあと,全角スペースを空けて,付録タイトルを記入。文章については,第1編付録のスタイルファイルに従う物とする。

作成者 梶田幸秀 (九州大学)



## 第1編付録および各種作用毎の付録スタイルファイル

- ・2006年9月27日梶田修正（付録のタイトルの付け方を変えました）

### 用紙，余白

A4用紙．余白は上下左右ともに20mm．一段組．特に指定がない限り，フォントは11ポイントのMS明朝体（全角），Times New Roman（半角）が基本．1ページあたり39行を基本とする．±2行の誤差は認める．句読点は「、。」ではなく「，．」．

ひらがな，カタカナ，漢字，ギリシャ文字，句読点は全角．アルファベット，数字は半角．ただし，付録番号「付録○」のときのみ例外で全角．

### 節・項など

#### 付録タイトル

タイトルは

第1編の場合「付録-I-付録番号 ○○○○」

第2編の場合「付録-II-作用番号-付録番号 ○○○○」

14ポイント，MSゴシック．ハイフンは全角，作用番号・付録番号は全角数字．付録番号の後は全角スペースを使用．ページの先頭，中央に置く．

#### 例

付録-I-1 荷重のばらつきや不確定性と設計用荷重（特性値と部分係数）

付録-I-2 統計的手法による作用モデルの構築

付録-II-10-1 落石シミュレーション （注：“10”は衝撃作用を意味します）

付録-II-10-2 爆発作用 （注：“10”は衝撃作用を意味します）

付録には「章」は存在しません．「付録番号.1 ○○○」といったように節スタイルが最上位のカテゴリーになります．（例として衝撃作用の本文+付録が [website](#) で公開してあります）

#### 節スタイル

節は「2.3 ○○○○」のように11ポイント，MSゴシック．

節番号は半角数字・半角ピリオド．

MS Word などでは，半角数字が英語フォントになるが，日本語ゴシックになるように注意．

節の前には空白行を一行入れる．

節の後ろにも空白行を一行入れる．

#### 項スタイル

項は「2.3.3 ○○○○」のように11ポイント，MSゴシック．半角数字・半角ピリオド使用．

項の前には空白行を一行入れる．項の後ろには空白行を入れない．

## 小見出しスタイル

小見出しスタイルについては特に規定しないが、11ポイントゴシックの半角を使用。しかしながら、小見出しスタイルはできれば使用しない。

## 図表など

図、写真のタイトルはそれらの下に、表のタイトルは上に、11ポイント、MSゴシックで書く。番号は付録ごとにつけ、「図」は「付図」と前に「付」をつける。（付図2.1、付表2.3など）。図表は、それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする。やむを得ない場合は、次ページになってもよいが、付録末尾にまとめたり、引用する文章よりも前のページにきてはいけない。

図、表の中の文字は11pt以下の大きさにし、フォントはMS明朝もしくはTimes New Romanとする。

## 数式

数式はセンタリングし、各節ごとに番号をつけ、右寄せで表記する。番号は半角括弧でくくる。式と式番号の間にはなにも記さない。文章中の式の参照は、「付式(4.1)」とする。

$$H_s = 1.5 k_n R_d \quad (4.1)$$

## 単位系

単位は原則としてSI単位を用いること。単位の字体は「立体」とする。「斜体」にしない。

## 参考文献

論文全体を通して番号をつけ、論文の最後にまとめて掲載する。参考文献の表記は、土木学会論文集投稿規定に準じる。一つの参考文献が2行以上にわたる場合は、作成例にあるようにインデント（頭下げ）を行う。

本文中で参照する場合には、半角、MS明朝で「梶田ら<sup>2)</sup>」のように上付きで記述する。2つ以上の論文を同時に参照するときは「文献<sup>1),2)</sup>」とする。参考文献では西暦を使用する。

## 参考文献

- 1) (社)日本道路協会：道路橋示方書V耐震設計編，丸善，1996.12.
- 2) 梶田幸秀，西本安志，石川信隆，香月智，渡邊英一：桁間衝突現象のモデル化に関する一考察，土木学会論文集，No.661/I-53，pp.251-264，2000.10.

作成者 梶田幸秀（九州大学）